



## 熊本県中学校体育連盟功労者賞を受賞して

上益城郡益城町立益城中学校 教諭 内田 晴龍

この度は、令和3年度熊本県中体連功労者賞を頂く栄誉を賜り誠にありがとうございました。今まで出会った多くの生徒・保護者や地域の方々、諸先輩や同僚、体育・競技団体関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成15年度から平成28年度までの14年間、県中体連バレーボール競技部専門部長を仰せつかり、主に県中体連大会の開催に向けた運営に携わらせていただきました。この間、熊本県バレーボール協会中学部長や（公財）日本中体連バレーボール競技部常任委員として、全中やJOC全国都道府県対抗中学バレーボール大会に関わらせていただいたことが思い出されます。自分自身を振り返ると、小学校時代は、水泳、相撲、ソフトボール、剣道、冬になると父の影響でスケート、スキーといった様々なスポーツを経験しました。また、ミュンヘンオリンピック（1972年）で全日本男子バレーボールチームが金メダルを獲得する姿を見て、中学時代（熊本市立東野中学校）に「バレーボール」と出会いました。当時の林茂雄先生には「勉強と部活の両立」の教えを頂きました。勉強が得意でなかった私にとってはつらい教えでしたが…。また、高校（現必由館高校）時代には、「バレーボールの楽しさ」と「仲間の大切さ」を学ぶと同時に、「スポーツと根性論」について興味を持ちました。大学時代には、プレーヤー兼学連の役員として大会の運営側の立場になり、「スポーツを支える」側の大変さを経験しました。その後、大学に残り教育技術職員（技手）として、一般学部生に体育を教える傍ら、大学女子バレーボール部のコーチを2年間勤めた後、大学の恩師の勧めで、新潟県上越市で2年間、故猪俣公宏教授（スポーツ心理学）の研究室に籍を置き、院生として「教育心理学」や「スポーツ心理学」を学びました。学生に戻って初めて、勉強することの大切さや必要性を感じました。上越での2年間は、学問とスポーツの両立を目指しました。学生時代から現在に至るまで、バレーボールを通じて、チームワークの大切さ、よき指導者との出会いなど、貴重な体験をさせていただきました。

その後、熊本県に戻り教員採用試験に合格し、平成元年（1989年）度に初任地として赴任した菊池郡の七城中学校（当時週休2日制のモデル校）では、剣道部、柔道部の顧問を経験し、3年目に男子バレーボール部を創設するにあたり、渡亮三校長先生には多くのアドバイスをいただきました。平成4年度から上益城郡の甲佐中学校（6年）、嘉島中学校（6年）、御船中学校（4年）に勤務し、平成6年度には「チーム上益城」として元加藤敬之理事長、服部起明先生をリーダーとし、上益城郡での県中体連大会の開催、平成20年度には県中体研の発表など、様々な経験を積むことができました。

また、平成10年（1998年）度から1年間、知事部局（高齢保健福祉課）に出向し一般行政の業務を経験したり、平成21年（2009年）度から8年間は、熊本県で初めて創設された中高一貫校の県立宇土中学校に勤務し、同時に高校の勤務もできたことは、幅広い人材との新たな出会いの機会となりました。

熊本を6年間、九州を2年間離れた経験を通して、今日までの教師生活を郷土の熊本で迎えることができたことは、私の「人生の財産（宝）」となりました。私の人生は、果たして社会を担う子どもたちの役に立てたかどうかわかりませんが、今回の賞をいただくことで、何らかのお役に立てたなら嬉しい限りです。亡き父の姿を見て、体育教師を目指すきっかけにもなりましたが、これもひとえに、今まで支えていただいた皆様のお陰であると感謝しております。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、熊本県中学校体育連盟・熊本県中学校体育研究会の益々の発展と先生方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お礼とさせていただきます。